

## 研修名

応急手当（心肺蘇生、AED使用を含む）に関する研修  
（事故事例を基にしたシミュレーション訓練）

<効果的な実施時期>  
年度始め、5～7月

### 1 研修目的

生命に関わる事故発生時の初期対応に関する知識や技能を身に付けるとともに、教職員の危機管理意識や資質の向上を図る。

### 2 研修の概要

学校等事故事例検索データベース（独立行政法人日本スポーツ振興センター）「（以下、JSC）」からの事故事例を基に、事故発生時の初期対応に関するシミュレーション訓練を実施する。その後、研修の様子を撮影した映像を分析・共有し、緊急時における教職員の動きや対応について共通理解を図る。

### 3 進め方のポイント

- （1）研修の目的や流れを事前に周知し、本研修への意欲付けを図っておく。
- （2）過去に発生した事故事例を基にしたシミュレーション訓練を行うことで、他校で発生した事例は自校でも起こり得るといふ共通認識のもと、参加した教職員に「自分ごと」として捉えさせる。
- （3）撮影した映像の分析・共有を通して、自分たちの動きや対応について客観的に振り返らせ、事故発生時における校内での安全管理体制について共通理解を図る。

### 4 準備物

- 進行スライド（※各学校の実情に応じて修正可能）
- パソコン、ビデオカメラ（タブレット）、プロジェクター、スクリーン（モニター）
- 筆記用具
- 心肺蘇生用訓練人形、AEDトレーナー、救急処置グッズ

### 5 研修のイメージ

<展開：死戦期呼吸の確認>



<展開：シミュレーション訓練の流れと様子>

シミュレーション訓練

①職員役と生徒役に分かれる。

・第一発見者：1名	・消防署役：1名
・指揮命令者（リーダー）：1名	・保護者役：1名
・応援者：〇名	・動画撮影：〇名

②第一発見者が職員室に応援要請し、救急車が到着するまでの一連の流れを実施する。

【認定】

③撮影した動画を見ながら振り返る。



### 6 研修に参加した先生の声

- 職員室で事故発生の知らせを受けた時、何も持たず現場に駆け付けてしまった。職員室内で、声に出して持ち物の確認をすれば良かった。
- 携帯電話を持参し現場に駆け付けたが、何故か、職員室に戻って119番通報しようとしてしまった。訓練なのに動揺している自分がいた。
- AEDを持ち出す時、保管ケースからの大音量のブザーに驚き、取り出さずに一度閉めてしまったので、年度始めの研修時に確認しておくとうい。



## 7 研修の進め方（例）【45分】

時間	内容	進め方	資料等
導入 (5分)	1 学校管理下における心臓突然死の発生状況を知る。【一斉】  2 「学校事故対応に関する指針」について理解する。【一斉】	○学校管理下での心臓突然死の発生件数やAEDの使用状況について説明する。 ○教職員による救命の事例を提示し、救命処置の重要性について共通理解を図る。 ○「学校事故対応に関する指針」について説明し、事故発生に備えた事前の取組等について説明する。	進行スライド(1-7) 資料1
展開① (10分)	3 初期対応で必要なことを確認する。【一斉】	○第一発見者の対応ポイントについて説明し、現場に向かう職員の動きや持ち物、役割等を確認させる。	進行スライド(8-11) 資料2 <small>(※死戦期呼吸を確認するために使用)</small>
展開② (15分)	4 事件事例を基にしたシミュレーション訓練を行う。【グループ】	○JSCデータベースの事件事例を活用し、役割分担のもと、シミュレーション訓練を行う。 ○第一発見者のみに想定内容を伝え、迅速かつ適切に対応できるようにする。(119番通報も実施)	進行スライド(12) 資料3
展開③ (10分)	5 撮影した映像を確認し、教職員の動きや対応について振り返りを行う。【一斉】	○それぞれの動きや対応について振り返りを行い、改善点や今後、留意すべき点等について全体で話し合わせる。	撮影した映像
まとめ (5分)	6 研修のまとめを行う。【一斉】	○話し合いで出されたことを全体で共有し、事故発生時における校内での安全管理体制について共通理解を図る。	進行スライド(13)

### <活用資料>

- (資料1)「学校事故対応に関する指針」(文部科学省)



- (資料2)「あなたにしか救えない大切な命～君の瞳とともに～ASUKAモデル編」  
(公益財団法人日本AED財団)



- (資料3)「学校等事件事例検索データベース」  
(独立行政法人日本スポーツ振興センター)



### <参考資料(サイト)>

- 「救命アクションカードを活用した緊急時の対応訓練モデル」  
(宮城県東部教育事務所)

